



シニア for シニア 認定団体アンケート

2025年10月

調査設計

■ 背景

- ・ 保護団体にとってシニア犬猫の譲渡・貸与は課題を抱えている
- ・ 高齢化社会が加速する中、心の支えとなるペットとの共生の機会を拡げる

■ 目的

- ・ シニア犬猫の譲渡・貸与実態の可視化
- ・ シニア犬猫×シニア飼い主の成立可能性の模索
- ・ 上記実現に向けた優良シニア層の参加促進

■ 概要

- ・ 調査目的： 犬猫保護団体における実態および意識調査
- ・ 調査期間： 2025年8月28日～9月25日
- ・ 調査方法： オンライン調査
- ・ 調査元： 公益社団法人アニマル・ドネーション
- ・ 調査対象： アニドネ認定 30保護活動団体（犬：21団体、猫：26団体）
- ・ 補足： 本アンケートにおける年齢定義
 - 犬：シニア＝7歳以上、ハイシニア＝13歳以上
 - 猫：シニア＝7歳以上、ハイシニア＝15歳以上
 - 人：高齢者＝60歳以上

■ シニアforシニア

一般的に譲渡されづらい高齢の保護犬猫と、年齢を理由に飼い主候補として保護犬猫を迎えられない高齢者のマッチングのこと。通常の保護譲渡と大きく異なる点は、所有権が飼い主に移譲しない「貸与（レンタル）」となり、万が一高齢者が入院や飼育困難な状況になった際には、保護団体が引き取る等のセーフティネット機能を果たすこと。

- 保護・譲渡いずれも犬は3～5割、猫は1割をシニア以上が占める
 - 特に犬の保護頭数シェアは半数に迫る
- シニア犬猫の譲渡は一定推進されているが、ハイシニアは難易度が高い印象
- 経済的負担としては相当大きく、犬は20万円以上、猫は10～15万円未満がトップ
 - 経済的負担が大きい中、極めて多くのケースで譲渡・貸与費用として金銭受領していない
- すでに現在シニアforシニアに取り組んでいる団体は半数に上っており必要性は高い
 - マッチング率としても67%(中央値)と、一定需要がある水準との印象を受ける
- 普及したら実現できることとしては「シニア犬猫と高齢者の豊かな老後」がトップ2となり、数値では測れない効果が期待される
- 貸与後の飼い主支援が一番の団体負担とされるも、優良飼い主の支援策として「保護活動団体による飼育相談」が一番必要との結果

1

保護・譲渡の現状

- シニア犬猫の割合
- シニア譲渡
- 保護活動団体の負担

2

シニアforシニア実績

- 譲渡・貸与件数
- 譲渡・貸与条件
- 譲渡・貸与金額
- 保護活動団体の負担

3

シニアforシニア検討

- 普及効果
- 飼い主の支援策
- 保護活動団体の意向

1

保護・譲渡の現状

- シニア犬猫の割合
- シニア譲渡
- 保護活動団体の負担

2

シニアforシニア実績

- 譲渡・貸与件数
- 譲渡・貸与条件
- 譲渡・貸与金額
- 保護活動団体の負担

3

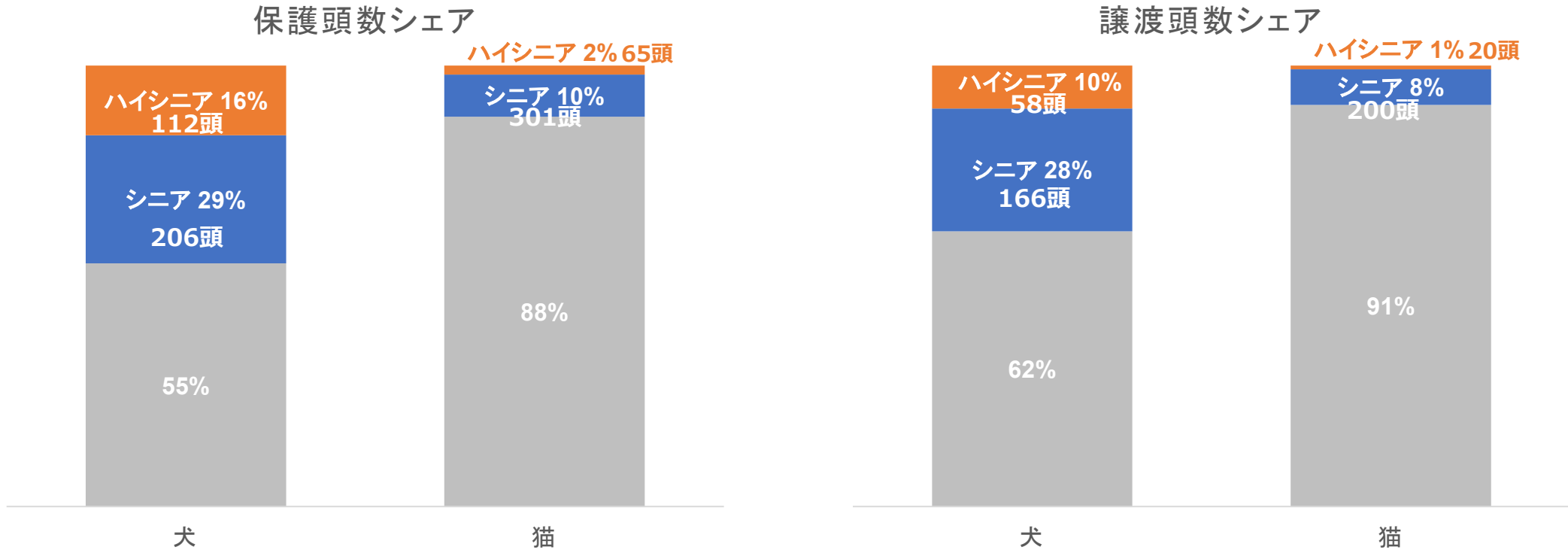
シニアforシニア検討

- 普及効果
- 飼い主の支援策
- 保護活動団体の意向

1. 保護・譲渡の現状 - シニア犬猫の割合

- 保護・譲渡いずれも犬は3～5割、猫は1割をシニア以上が占める
- 特に犬の保護頭数シェアは半数に迫っており、シニアに関する課題に直面していると推察

過去1年間に保護・譲渡した犬猫の頭数を教えてください



保護頭数ベース (n: 犬709, 猫3,155)
 譲渡頭数ベース (n: 犬596, 猫2,460)

1. 保護・譲渡の現状 - シニア譲渡

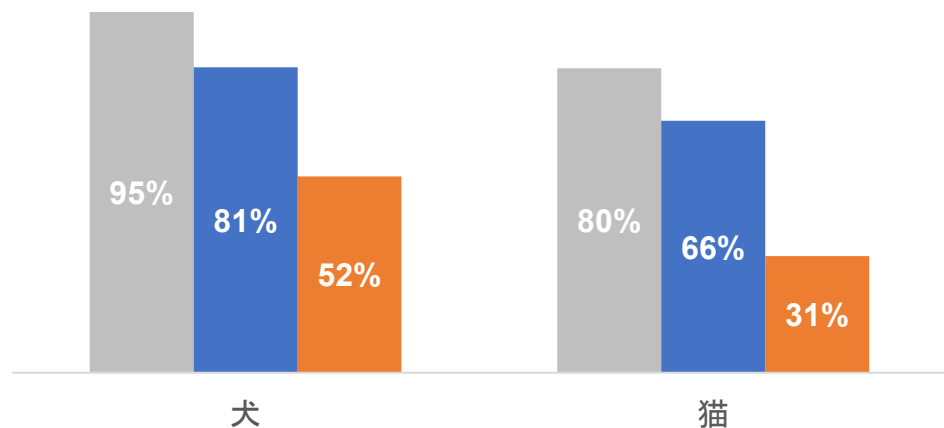
- シニア犬猫の譲渡は一定推進されているが、ハイシニアは難易度が高い印象
- 高齢者への譲渡は約半数となっており、限定されるケースがあると見受けられる

過去1年間に保護・譲渡した犬猫の頭数を教えてください

過去1年間に希望があって保護犬猫（シニア・非シニアいずれも含む）を譲渡・貸与した**高齢者の人数**を教えてください

犬猫の譲渡率

■ 非シニア ■ シニア ■ ハイシニア



高齢者への譲渡率
(非シニアの犬猫を含む)

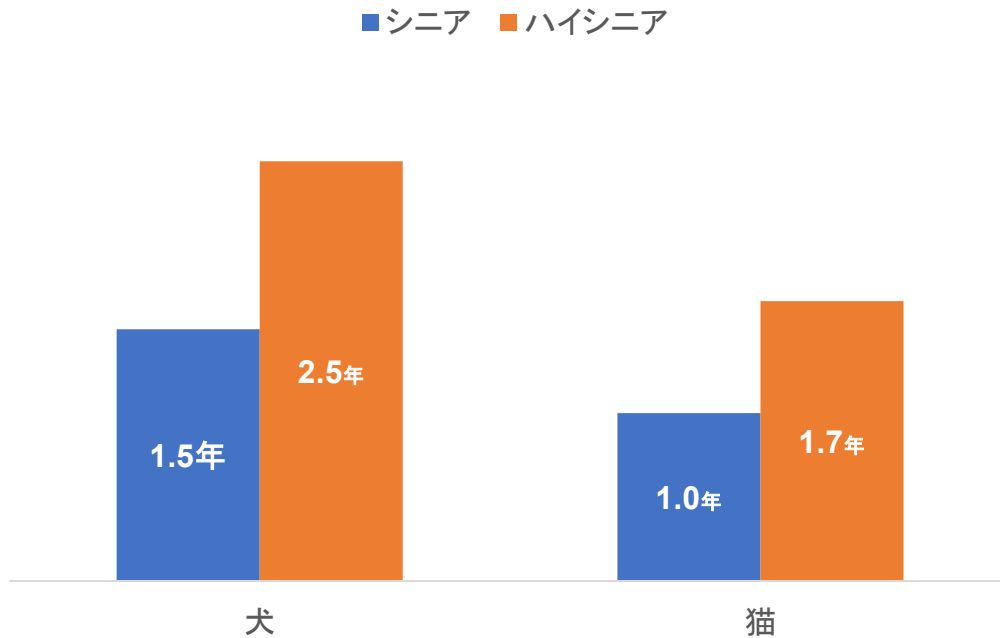


保護頭数ベース (n : 犬709, 猫3,155) ※保護と譲渡の対象期間を同一としているため対象個体は必ずしも一致しない
 高齢者人数ベース (n : 829) ※定義 : 60歳以上

1. 保護・譲渡の現状 – 保護活動団体の負担

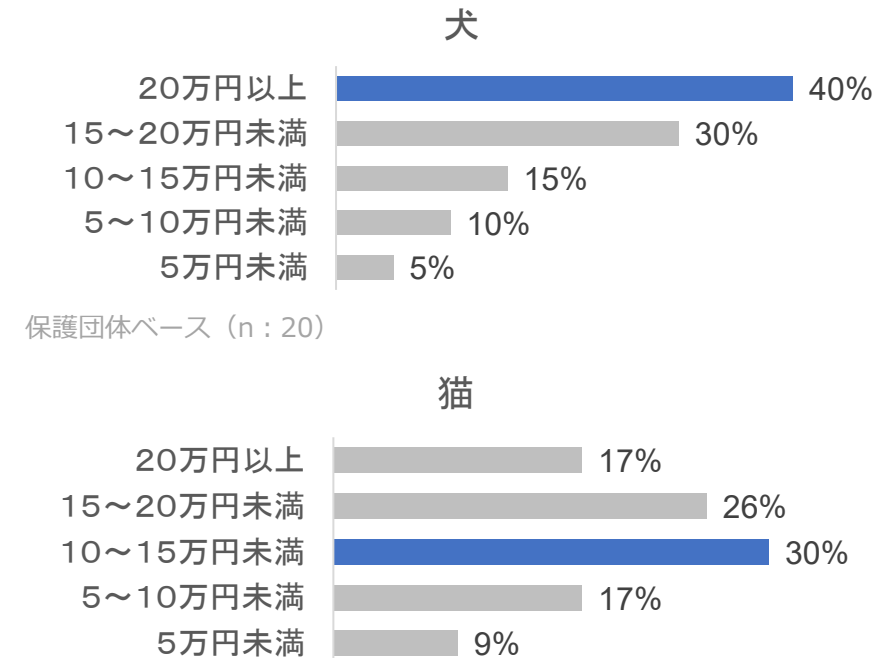
- 保護期間はシニアも長いが、ハイシニアはそのまま看取る範疇となり得る期間
- 経済的負担としては相当大きく、犬は20万円以上、猫は10~15万円未満がトップ

平均保護期間を教えてください
(一時預かりボランティア宅での保護期間を含む)



保護団体ベース (n : 19) 中央値

保護から譲渡・貸与までの平均必要経費 (医療・日用品・フード等) はいくらですか? (人件費・設備費を除く)



保護団体ベース (n : 23)

1

保護・譲渡の現状

- シニア犬猫の割合
- シニア譲渡
- 保護活動団体の負担

2

シニアforシニア実績

- 譲渡・貸与件数
- 譲渡・貸与条件
- 譲渡・貸与金額
- 保護活動団体の負担

3

シニアforシニア検討

- 普及効果
- 飼い主の支援策
- 保護活動団体の意向

2.シニアforシニア実績 - 譲渡・貸与件数

- すでにシニアforシニアに取り組む11団体ではこれまでに累計133件のマッチング実績あり
- マッチング率としては67%(中央値)と、一定需要がある水準との印象を受ける

「シニアforシニア」の年齢条件に該当する
マッチング・最終的にマッチングしなかったケースは
これまでに通算で何件ありましたか？

マッチングした 総数 **133**件 団体当 **4**件*

マッチングしなかった 総数 **78**件 団体当 **1**件*
*中央値

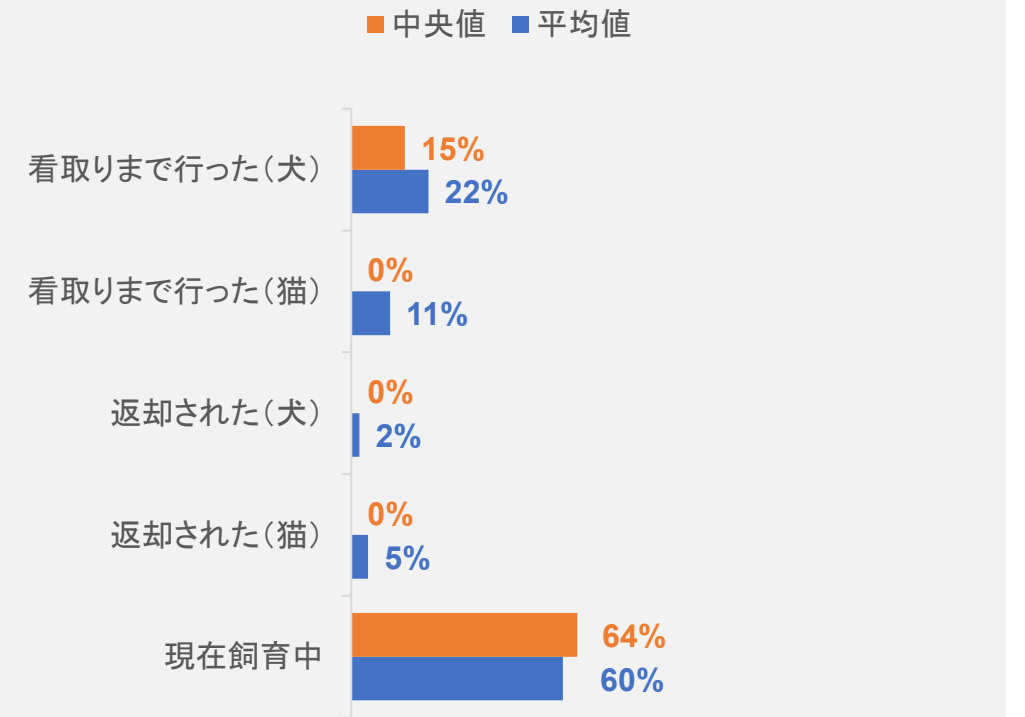
マッチング率 *中央値



* 特定非営利活動法人 猫と人を繋ぐツキネコ北海道（マッチング実績過去約500件）は除く

シニアforシニア実施保護団体ベース（n：11）

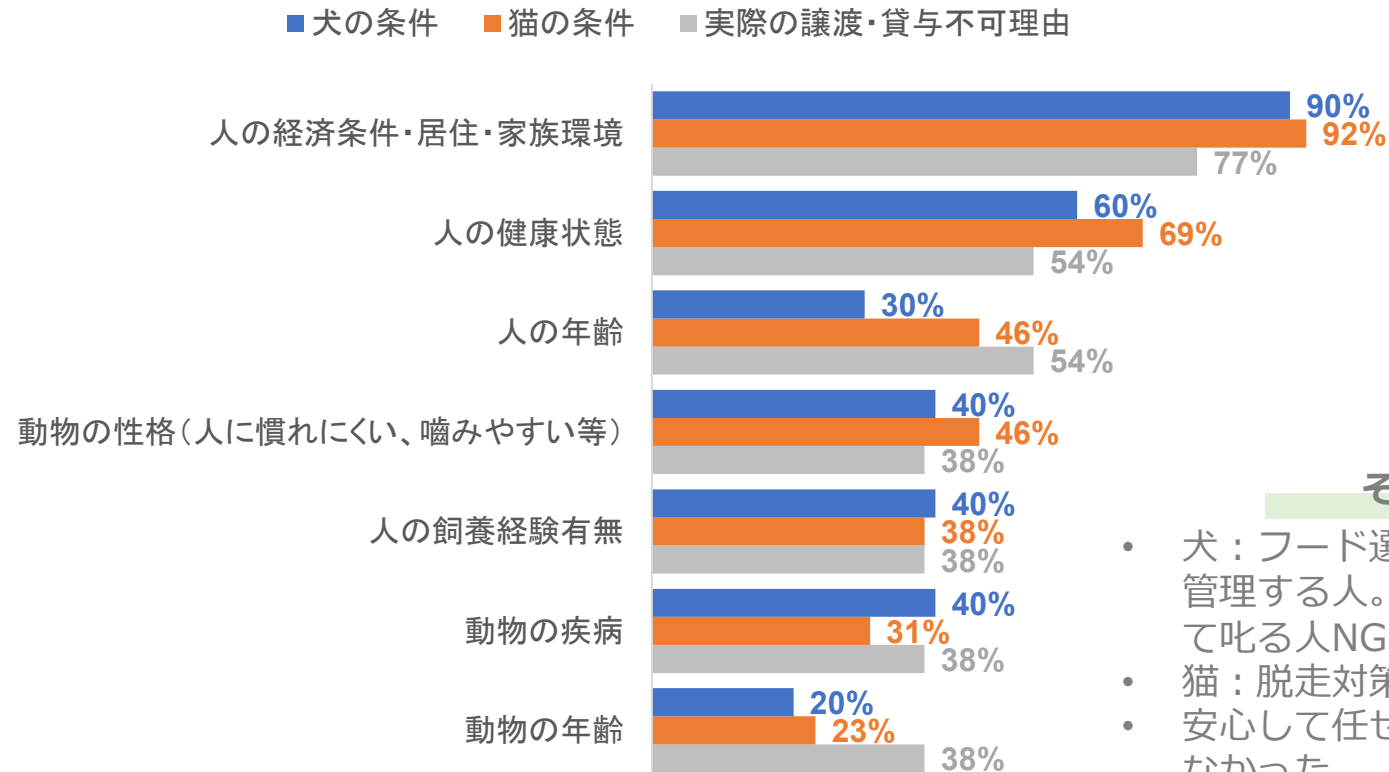
「シニアforシニア」貸与後、再引き取りとならずに
高齢者が**看取りまで行った**・再引き取りとなり**返却された**
犬猫の頭数を教えてください



2.シニアforシニア実績 - 譲渡・貸与条件

- 譲渡・貸与に至るには動物側よりも人側の条件がボトルネックとなっている
- 人側の周辺条件が不可理由とされる中、人の年齢自体も不可理由とする団体が過半数

貸与不可とする条件・実際に貸与に至らなかった主な理由をすべて教えてください
 (非シニア犬の譲渡不可条件は含めずに、シニア特有の内容でお答えください)



その他コメント

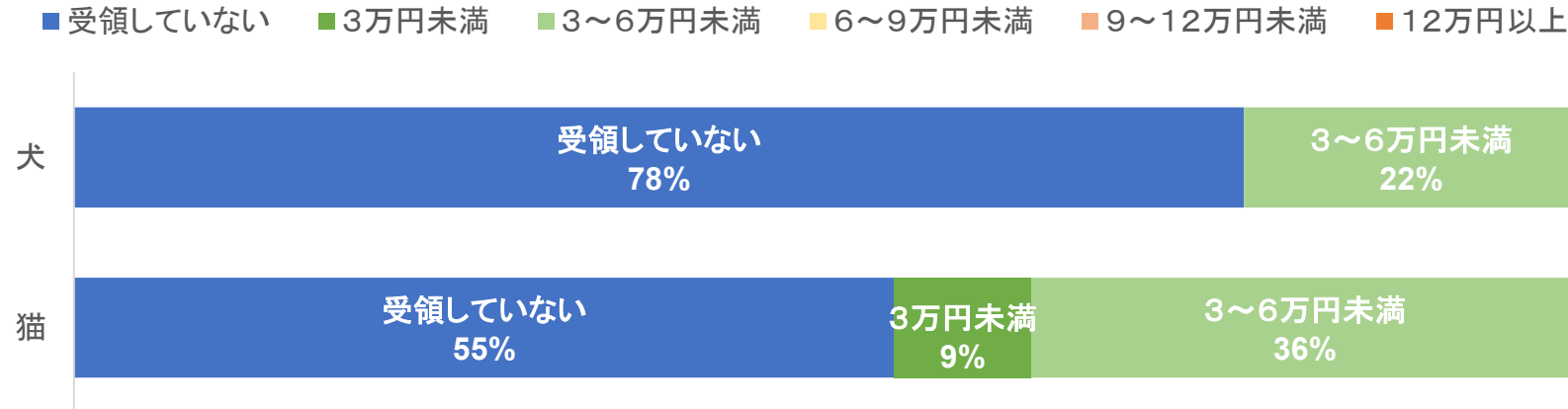
- 犬：フード選択、病院、などきちんと管理する人。昔の飼い方、叩いたりして叱る人NG
- 猫：脱走対策が不十分
- 安心して任せられる言動行動の方ではなかった

シニアforシニア実施保護団体ベース (n : 犬10、猫13)

2.シニアforシニア実績 - 譲渡・貸与金額

- 前述のとおり経済的負担が大きい中、極めて多くのケースで譲渡・貸与費用として金銭受領していない

シニア・ハイシニア犬猫を貸与するにあたって金銭は受領していますか？平均金額を教えてください



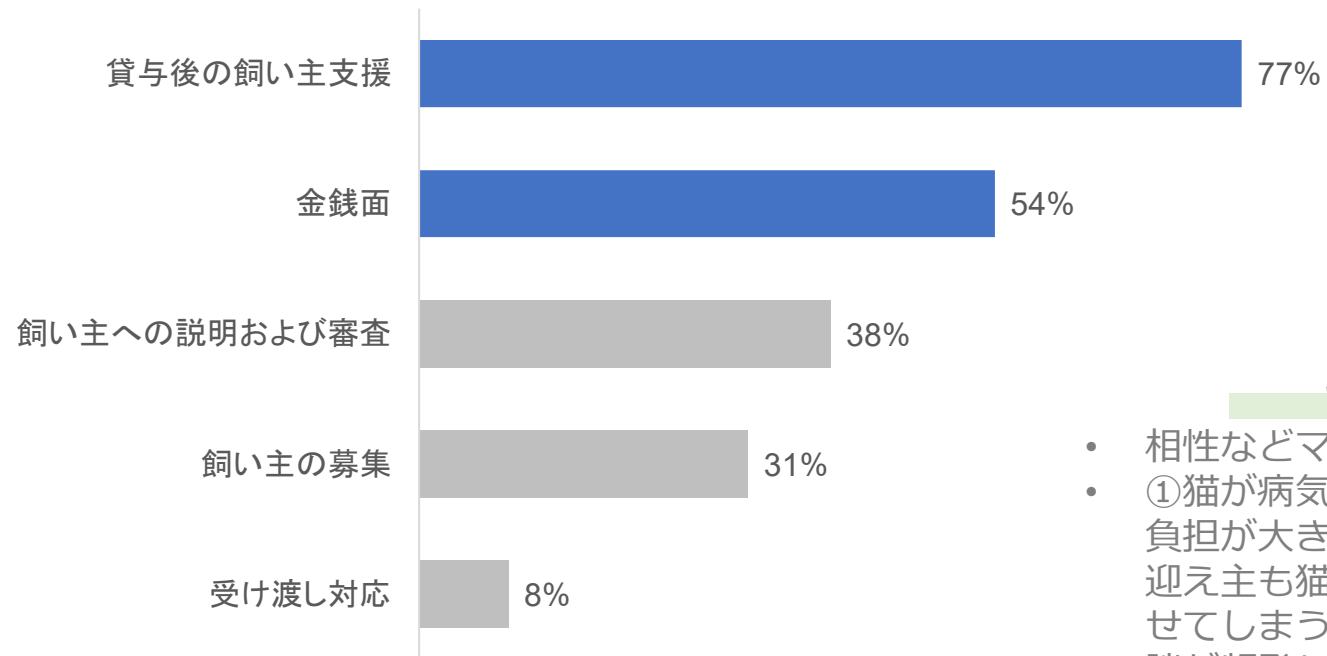
その他コメント

- 出来る限り経済的に大丈夫な人が望ましいと思います。しかし、すでに薬を飲ませ続けなくてははいけない。残り何年も無い、など費用をいただかないことが多くあります。
- 終生預かり制度でボランティアさんに貸与しているため費用は当会の負担

2.シニアforシニア実績 – 保護活動団体の負担

- 団体側の負担として体力面の「貸与後の飼い主支援」がトップ、次いで金銭面となった
- それなりの余力がある団体に取り組んでいると想像できる一方、支援の必要性が伺える

「シニアforシニア」貸与における**団体側の負担**について上位3つまで教えてください



その他コメント

- 相性などマッチングを大切にしています
- ①猫が病気がちで迎え主の通院や看病の負担が大きい ②看取りを望んでいたが、迎え主も猫も延命治療で苦しい思いをさせてしまうこともあった ③猫の体調相談が頻発し、支援側の対応負担も増えた ④シニア猫の場合戻ってきた場合に再譲渡の可能性が低い

1

保護・譲渡の現状

- シニア犬猫の割合
- シニア譲渡
- 保護活動団体の負担

2

シニアforシニア実績

- 譲渡・貸与件数
- 譲渡・貸与条件
- 譲渡・貸与金額
- 保護活動団体の負担

3

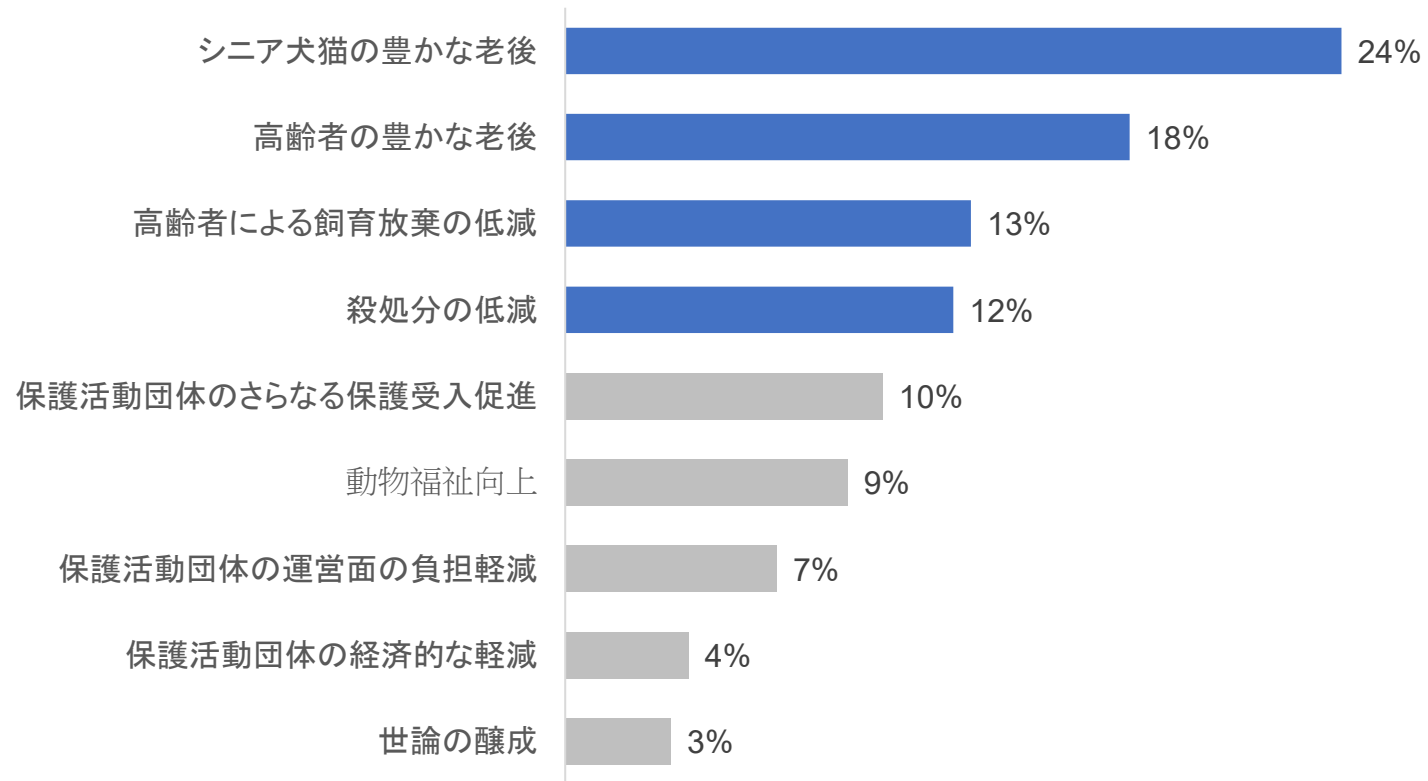
シニアforシニア検討

- 普及効果
- 飼い主の支援策
- 保護活動団体の意向

3.シニアforシニア検討 - 普及効果

- シニア犬猫と高齢者の生活の質向上がトップ2となり、数値では測れない効果が期待される
- 次いで、飼育放棄や殺処分といった根深い問題にも良い影響を与えられると考える

「シニアforシニア」が普及したら実現できると思うことを上位3つまで教えてください

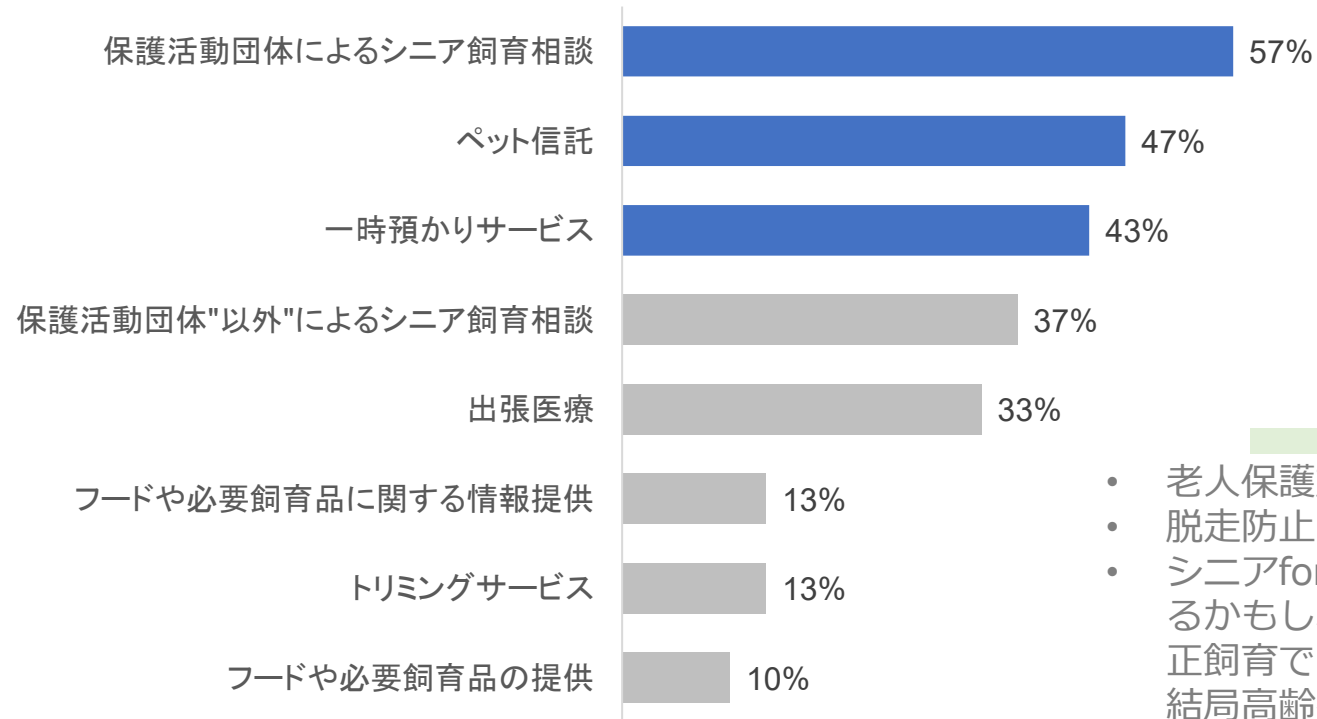


保護団体ベース (n : 30)

3.シニアforシニア検討 - 飼い主の支援策

- 前述のとおり貸与後の飼い主支援が一番の団体負担とされるも、飼育相談が一番必要の結果
- 飼い主を経済的・体力的に支援するサービスも上位に位置

「シニアforシニア」推進のため、責任感のある優良飼い主の支援策として必要だと思われるサービスを上位3つまで教えてください



その他コメント

- 老人保護施設にてペットとの入所
- 脱走防止に対する支援
- シニアforシニアは犬猫の保護数は増えるかもしれないが、人間シニアの方が適正飼育できるか、認定や監査をしないと結局高齢者が責任なく犬を飼うことができる状態を作り出してしまいかねません

保護団体ベース (n : 30)

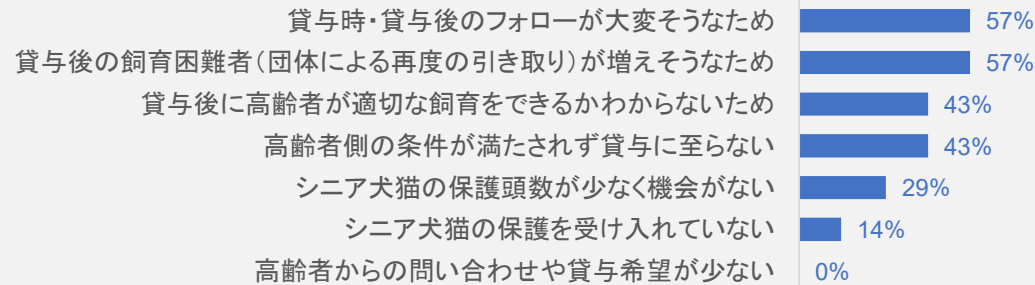
3.シニアforシニア検討 - 保護活動団体の意向

- すでに現在シニアforシニアに取り組んでいる団体は半数に上っており必要性は高い
- 今後取り組んでみたいと回答する団体もあり、ハードル解消により拡大が期待される

貴団体で「シニアforシニア」の年齢条件に該当するマッチング（貸与）に取り組んでみたいと思いますか？



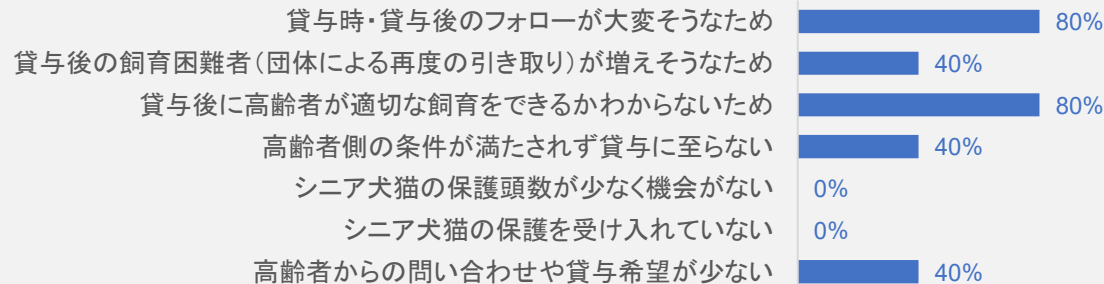
現在取り組んでいない理由を上位3つまで教えてください



その他コメント

- 施設を持っておらず、スタッフも働きながらの活動のため、高齢者から帰ってきた場合の預かり先の確保が難しい。貸与の際の契約書などの作成ができていない。
- 一部で取り組みを行っていた時期もありましたが、高齢の方が飼育困難となった際に、迅速かつ的確に対応できるフローを構築できていないため、現在は中止しています。今後、良い方法があれば、ぜひ再び取り組みたいと考えている課題です。

取り組んでみたくないと回答した理由を上位3つまで教えてください



その他コメント

- 60歳以下の年代からシニア犬猫の里親希望もあるため。
- 現在シニアの方へシニア犬猫譲渡はしておりますが、確実に終生飼養して頂けそうなご家庭のみに譲渡しております。何かあったら戻すというのは、犬にとっては環境がまた変わり老犬にとっては計り知れないストレスがかかると思う為。何度も家族を代えるのは人間の工ゴのように感じます。

ありがとうございました